

ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ増給ス  
〔參照〕

大正十二年<sup>四月十四日</sup>法律第四十八號恩給法抄錄  
第七十二條第一項及第三項

本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ  
祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシ  
テ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同  
一戶籍内ニ在ルモノヲ謂フ

戶籍届出ノ委託ヲ爲シタル後届出人死亡シ其ノ死  
亡後委託ニ基ク届出カ受理セラレ又ハ戶籍届書ヲ  
郵送シタル後届出人死亡シ其ノ死亡後届書カ受  
理セラレタルトキ其ノ届出カ他ノ法令ニ依リ届出  
人死亡ノ時ニ爲サレタルモノト看做サル場合ニ  
於テハ其ノ届出ニ因リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者  
ト同一戶籍内ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子  
又ハ兄弟姉妹ト爲ル者ハ第一項ノ規定ノ適用ニ付  
テハ當該届出カ届出人ノ死亡後二年内ニ受理セラ  
レタルトキニ限り届出人ノ死亡ノ時ヨリ公務員又  
ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、  
子又ハ兄弟姉妹トシテ之ト同一戶籍内ニ在リタル  
モノト看做ス

第七十四條ノ二第一項

第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員又ハ之ニ準  
スヘキ者ノ遺族ト看做サレタル者ニ給スル扶助料  
ハ委託又ハ郵便ニ依ル戶籍届出ノ受理ノ日ヨリ之  
ヲ給ス

第七十五條第一項及第二項

扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一 第二號乃至第四號ニ特ニ規定スル場合ノ外ハ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩  
給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰鬪又ハ戰鬪ニ準  
スヘキ公務員ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキ

ハ前號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依  
リ定メタル別表第五號表ノ率ヲ乘シタル金額

三 公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務員ニ因ル傷  
痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ第一號ノ規定ニ依  
ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第

六號表ノ率ヲ乘シタル金額

四 増加恩給ヲ併給セラルル者公務員ニ起因スル傷  
痍疾病ニ因ラスシテ死亡シタルトキハ第一號ノ  
規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタ

ル別表第七號表ノ率ヲ乘シタル金額

前項第二號乃至第四號ニ規定スル場合ニ於テ扶助  
料ヲ受クル者ノ同一戶籍内ニ扶助料ヲ受クヘキ要

件ヲ具フル遺族カ扶助料ヲ受クル者ヲ合シ三人以  
上アルトキハ其ノ扶助料年額ニ遺族ノ人員ニ依リ

定メタル別表第八號表ノ率ヲ乘シタル金額ヲ加給  
ス但シ同一戶籍内ニ扶助料ヲ受クル者二人以上ア

ル場合及二以上ノ扶助料ヲ併セ受クル者アル場合  
ニ於ケル加給ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

### 食糧管理法の公布

第七十九回帝國議會の協贊を経たる食糧管理法は昭

和十七年二月二十一日付官報を以て公布を見たが、之  
を掲ぐれば次の如くで、米、麥等の主要食糧の政府買上

げを第一とし、その他主要食糧の配給機構の整備、非  
常時用食糧の一元的貯藏等を中心として主要食糧の國

家管理體制を強化せんとするものである。

### 食糧管理法 (昭和十七年二月二十日 法律第四十號)

第一條 本法ハ國民食糧ノ確保及國民經濟ノ安定ヲ圖  
ル爲食糧ヲ管理シ其ノ需給及價格ノ調整並ニ配給ノ  
統制ヲ行フコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ主要食糧トハ米穀、大麥、稗麥、  
小麥其ノ他勅令ヲ以テ定ムル食糧ヲ謂フ

第三條 米穀、大麥、稗麥又ハ小麥(以下米麥ト稱ス)  
ノ生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有シ小作料トシテ之ヲ  
受クル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ生産シ又ハ小

作料トシテ受ケタル米麥ニシテ命令ヲ以テ定ムルモ  
ノヲ政府ニ賣渡スベシ

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入ノ價格ハ勅令ノ定ム  
ル所ニ依リ生産費及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シ

テ之ヲ定ム

第四條 政府ハ其ノ買入レタル米麥ヲ食糧營團又ハ政  
府ノ指定スル者ニ賣渡スモノトス

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ賣渡ノ價格ハ勅令ノ定ム  
ル所ニ依リ家計費及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シ

テ之ヲ定ム

第五條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ米麥以外ノ主  
要食糧ノ買入又ハ賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時  
價ニ準據シテ之ヲ定ム

第六條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ主要食糧ノ輸  
入若ハ移入ヲ目的トスル買入又ハ輸出若ハ移出ヲ目

的トスル賣渡ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ政

府之ヲ定ム

第七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ貸付又ハ交付ヲ爲スコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ主要食糧ノ貯藏、交換、加工又ハ製造ヲ爲スコトヲ得

第八條 第三條第一項ノ者ハ同項ノ規定ニ依リ其ノ者ガ政府ニ賣渡スベキ米麥ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クベシ但シ勅令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ検査ノ外勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ニ付検査ヲ受クベキコトヲ命ズルコトヲ得

第九條 政府ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ配給、加工、製造、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、保管及移動ニ關シ必要ナル勅令ヲ爲スコトヲ得

第十條 政府ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ價格、加工賃又ハ製造ノ料金ニ關シ必要ナル勅令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 米麥ノ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ米麥ヲ輸入又ハ移入シタル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入又ハ移入シタル米麥ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ政府ニ賣渡スベシ

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入ノ價格ハ政府之ヲ定ム  
政府ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所

ニ依リ期間ヲ指定シ米麥以外ノ主要食糧ノ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得  
第十二條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ主要食糧ノ輸入税ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得

第十三條 主要食糧ノ生産費、生産高、現在高及移動ノ調査、家計費ノ調査其ノ他主要食糧ノ管理ヲ行フ爲必要ナル調査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ調査ヲ行フ爲必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏若ハ吏員ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第十四條 食糧營團ハ法人トシ政府之ヲ監督ス  
食糧營團ハ中央食糧營團及地方食糧營團トス  
食糧營團ニ非ザル者ハ食糧營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十五條 中央食糧營團ハ政府ノ定ムル食糧配給計畫ニ基キ主要食糧ヲ配給スルト共ニ政府ノ指定スル食糧ヲ貯藏スル爲必要ナル事業ヲ行フコトヲ目的トス  
中央食糧營團ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク  
中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第十六條 中央食糧營團ノ資本金ハ一億圓トシ之ヲ二百萬口ニ分チ一口ノ出資金額ヲ五十圓トス但シ資本金ハ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

政府ハ五千萬圓ヲ限リ中央食糧營團ニ出資スベシ  
政府ノ引受ケタル出資ノ出資金拂込ハ其ノ他ノ出資ノ出資金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第十七條 中央食糧營團ハ定款ヲ以テ出資者ノ資格ヲ制限スルコトヲ得

第十八條 中央食糧營團ニ總裁副總裁各一人、理事五人以上、監事三人以上及評議員若干人ヲ置キ政府之ヲ命ズ

第十九條 中央食糧營團ハ左ノ事業ヲ行フモノトス  
一 主要食糧ノ買入  
二 地方食糧營團又ハ政府ノ指定スル者ニ對スル主要食糧ノ賣渡  
三 政府ノ指定スル食糧ノ貯藏  
四 政府ノ指定スル主要食糧ノ加工、製造及保管  
五 前各號ノ事業ニ附帶スル事業  
六 前各號ノ外中央食糧營團ノ目的達成上必要ナル事業

中央食糧營團前項第五號又ハ第六號ノ事業ヲ行ハントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ  
中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ休止スルコトヲ得ズ

第二十條 政府ハ中央食糧營團ニ對シ主要食糧ノ配給上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ジ其ノ他業務ニ關シ公益上必要ナル勅令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 中央食糧營團ハ政府ノ許可ヲ受ケ其ノ寄託ヲ受ケタル物ニ付倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得  
商業組合法第三條ノ六第二項第三項、第三條ノ七、第三條ノ八第一項第二項本文及第三條ノ九ノ規定ハ前項ノ倉荷證券ニ付之ヲ準用ス但シ同法第三條ノ七、第三條ノ八第一項及第三條ノ九中商業組合倉庫證券トアルハ食糧營團倉庫證券トス

政府ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ米麥以外ノ主要食糧ノ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二十二條 中央食糧營團ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ食糧營團債券ヲ發行スルコトヲ得

政府ハ食糧營團債券ノ元利支拂ヲ保證スルコトヲ得

第二十三條 中央食糧營團ハ販賣ノ目的ヲ以テ買入ルル者ニ主要食糧ヲ賣渡ストキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ主要食糧ノ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得

政府ハ主要食糧ノ配給上特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ者ニ對シ同項ノ指示ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十四條 中央食糧營團ノ解散及清算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 地方食糧營團ハ地方長官(樺太廳長官ヲ含ム以下同ジ)ノ定ムル食糧配給計畫ニ基キ地方ノ主要食糧ヲ配給スルト共ニ地方長官ノ指定スル食糧ヲ貯藏スル爲必要ナル事業ヲ行フコトヲ目的トス

地方食糧營團ノ名稱、資本金及主タル事務所ノ所在地ハ政府之ヲ定ム

地方食糧營團ノ名稱ニハ其ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣ノ名(樺太ニ在リテハ樺太)ヲ冠ス

政府ハ樺太ニ地方食糧營團ヲ設立セシムル場合ニ於テハ八百萬圓ヲ限り之ニ出資スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル出資ハ樺太廳特別會計ノ歳出トシ之ニ因リ取得シタル出資證券ハ同會計ノ所屬物件トス

第十六條第三項ノ規定ハ第四項ノ規定ニ依ル出資ノ出資金拂込ニ之ヲ準用ス

第二十六條 中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受ケ地方食糧營團ニ出資スルコトヲ得

第十六條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル出資ノ出資金拂込ニ之ヲ準用ス

第二十七條 地方食糧營團ニ理事長一人、理事三人以上、監事二人以上及評議員若干人ヲ置キ地方長官之ヲ命ズ

第二十八條 地方食糧營團ハ左ノ事業ヲ行フモノトス

- 一 主要食糧ノ買入及賣渡
- 二 地方長官ノ指定スル食糧ノ貯藏
- 三 地方長官ノ指定スル主要食糧ノ加工及製造
- 四 前各號ノ事業ニ附帶スル事業
- 五 前各號ノ外地方長官ノ指定スル主要食糧ノ保管其ノ他地方食糧營團ノ目的達成上必要ナル事業

地方食糧營團前項第四號又ハ第五號ノ事業ヲ行ハントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二十九條 第十五條第三項、第十七條、第十九條第三項、第二十條、第二十一條、第二十三條及第二十四條ノ規定ハ地方食糧營團ニ付之ヲ準用ス

第三十條 農地開發法第八條、第十條乃至第十四條、第十七條、第十九條、第二十條後段、第二十一條、第二十二條第二項第三項、第二十五條乃至第二十七條、第二十九條乃至第三十七條及第三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ食糧營團ニ付之ヲ準用ス

但シ同法第十二條第一項、第十三條第二項、第二十一條、第二十七條、第三十五條、第三十七條第二項、第三十九條、第四十條第一項及第四十一條中主務大臣トアルハ政府トシ同法第十九條第二項中副理事長ハトアルハ地方食糧營團ニ付テハ理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リトシ同法第四十條中農地開發營團監

理官トアルハ食糧營團監理官トス

第三十一條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條第一項又ハ第十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第十一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第四項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者

前項第二號ノ場合ニ於テ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入シタル主要食糧ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徴スルコトヲ得

第三十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十四條 第二十三條第二項(第二十九條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 不正ノ手段ニ依リ第八條ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者

二 第八條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケザル者

三 第十三條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

第三十六條 第十三條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百

圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、

使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ

第三十一條、第三十二條、第三十四條又ハ第三十五

條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外

其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十八條 食糧營團ノ總裁、副總裁、理事長、理

事、監事又ハ使用人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又

ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役

又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ

又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役又

ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ

其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其

ノ價額ヲ追徴ス

第三十九條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付

シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲

役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減

輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十條 食糧營團本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令

又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁、

理事長、總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁又ハ

理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル理事ヲ五千圓以下

ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキ

ハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第四十一條 食糧營團ノ總裁、副總裁、理事長又ハ業

務ヲ分掌スル理事第三十條ニ於テ準用スル農地開發

法第二十一條ノ規定ニ違反シ他ノ職務ニ從事シタル

トキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十二條 第十四條第三項ノ規定ニ違反シ食糧營團

又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過

料ニ處ス

第四十三條 本法ノ一部ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ

樞太ニ適用セザルコトヲ得

樞太ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナル事項ニ關シ

テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

附則

第四十四條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ

之ヲ定ム

第四十五條 左ニ掲グル法律ハ之ヲ廢止ス

一 農產物検査法

二 米穀統制法

三 米穀自治管理法

四 米穀配給統制法

五 糶共同貯藏助成法

六 政府所有米穀特別處理法

七 昭和九年法律第五十二號

八 昭和十二年法律第九十號

前項ニ掲グル法律廢止前當該法律ノ罰則ヲ適用スベ

カリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第一項ニ掲グル法律ノ廢止ニ關シ必要ナル規定ハ勅

令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 政府ハ設立委員ヲ命ジ中央食糧營團ノ設

立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十七條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受

クベシ

政府ハ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ第十九條第一項

ニ掲グル事業ト同種ノ事業ヲ行フ株式會社、商業組

合、商業組合聯合會、工業組合又ハ工業組合聯合會

ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノニ對シ其ノ解散ヲ命ズ

ルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル法人ハ中央食糧營團成立ノ時

解散スルモノトシ其ノ權利義務ハ中央食糧營團之ヲ

承繼ス此ノ場合ニ於テハ他ノ法令中解散及清算ニ關

スル規定ハ之ヲ其ノ法人ニ適用セズ

第四十八條 前條第一項ノ認可アリタルトキハ設立委

員ハ政府ノ引受ケタル出資及勅令ノ定ムル所ニ依リ

政府ノ認可ヲ受ケ同條第二項ノ命令ニ係ル法人ノ株

式又ハ出資ニ引當テタル出資ヲ控除シタル殘餘ノ出

資ニ付投資若クハ募集スベシ

政府ハ前項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ食糧配給事

業評價委員會ノ議ヲ經ベシ

食糧配給事業評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ

之ヲ定ム

第四十九條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキ

ハ出資申込書ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ

設立委員ハ前項ノ檢査ヲ受ケタル後遲滞ナク出資第

一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

出資第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資者ノ總會ヲ

招集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其

ノ事務ヲ中央食糧營團總裁ニ引渡スベシ

總裁前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ總裁、副總

裁、理事及監事ノ全員ハ主たる事務所ノ所在地ニ於

テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

中央食糧營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第五十條 本法ニ規定スルモノノ外中央食糧營團ノ設立及第四十七條第二項ノ命令ニ係ル法人ノ解散ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 前五條ノ規定ハ地方食糧營團ニ付之ヲ準用ス但シ第四十七條第二項中第十九條第一項トアルハ第二十八條第一項トス

第五十二條 第四十七條第三項ノ規定ニ依リ解散シタル商業組合又ハ商業組合聯合會ノ發行シタル倉荷證券アルトキハ之ヲ當該商業組合又ハ商業組合聯合會ノ權利義務ヲ承繼シタル食糧營團ノ發行シタル倉荷證券ト看做ス

第五十三條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第五條ノ二 中央食糧營團カ食糧營團債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 食糧營團債券又ハ其ノ第三回以後ノ拂込 毎回拂込金額 千分ノ二

二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金十圓

從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金二圓ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第十九條第七號中「農地開發營團」ノ下ニ「食糧營團」ヲ、「農地開發法」ノ下ニ「食糧管理法」ヲ加フ

第五十四條 印紙稅法第五條中第五號ノ二ヲ第五號ノ三、第五號ノ三ヲ第五號ノ四トシ第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五ノ二 食糧營團ノ發スル出資證券及食糧營團債券

第五十五條 產業組合中央金庫法第十五條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

五 食糧營團其ノ他農林水產業ニ關スル事業ヲ營

ム法人ニ對シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ短期貸付ヲ爲スコト

第五十六條 商工組合中央金庫法第二十九條第一項第三號中「又ハ自動車運送事業組合聯合會」ヲ「自動車運送事業組合聯合會又ハ食糧營團」ニ改ム

第五十七條 第十四條第三項ノ規定施行ノ際現ニ食糧營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ使用スル者ハ同項ノ規定施行後六月以內ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十二條ノ規定ハ前項ノ期間內之ヲ同項ノ者ニ適用セズ

〔參照〕

明治二十九年三月二十日公布法律第二十七號登錄稅法抄錄

第十九條 左ニ掲クルモノニハ登錄稅ヲ課セス但シ

第二號ノ二、第八號乃至第九號ノ四、第十一號、第十一號ノ三、第十二號及第十四號乃至第十七號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

七 恩給金庫、農地開發營團、產業組合、產業組合聯合會、產業組合中央會、國民更生金庫、庶民金庫、帝都高速度交通營團、住宅營團、產業設備營團、蠶絲共同施設組合、漁業組合、漁業組合聯合會、商工組合中央金庫、工業組合、工業組合聯合會、工業小組合、工業組合中央會、商業組合、商業組合聯合會、商業小組合、商業組合中央會、貿易組合、貿易組合聯合會、貿易組合中央會、造船組合、造船組合聯合會、海運組合、海運組合聯合會、肥料製造業組合、自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會、貸家組合、貸家組合聯合會、貸室組合又ハ貸室組合聯合會ニ付恩給金庫法、農地開發法、產業

組合法、國民更生金庫法、庶民金庫法、帝都高速度交通營團法、住宅營團法、產業設備營團法、蠶絲業法、漁業法、商工組合中央金庫法、工業組合法、商業組合法、貿易組合法、造船事業法、海運組合法、重要肥料業統制法、自動車交通事業法又ハ貸家組合法ニ基キテ爲ス登記

明治三十二年三月十日公布法律第五十四號印紙稅法抄錄

第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

〔左記略ス〕

大正二年四月六日公布法律第四十二號產業組合中央金庫法抄錄

第十五條第一項 產業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

〔左記略ス〕

昭和十一年五月二十日法律第十四號商工組合中央金庫法抄錄

第二十九條第一項 商工組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

三 商業組合、商業組合聯合會、商業小組合、工業組合、工業組合聯合會、工業小組合、貿易組合、貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

昭和九年十二月十日法律第五十二號ハ凶作地ニ對スル政府所有米穀ノ臨時交付ニ關スル件及同十二年九月十日法律第九十號ハ米穀ノ應急措置ニ關スル件ナリ